
しっぽ

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
しっぽ

【Nコード】
N5644I

【作者名】
山羊ノ宮

【あらすじ】
小野京香はセミロングの亜麻色の髪を揺らしながら、ひざ丈のブーツで颯爽と歩いていた。
京香は歩きながら、今日はインナー買っぞと決意していた。

小野京香はセミロングの亜麻色の髪を揺らしながら、ひざ丈のブーツで颯爽と歩いていた。

京香は歩きながら、今日はインナー買うぞと決意していた。

その決意には理由があった。

昨年一昨年もアウターを買ってしまったて、結局アウターばかりになってしまっている。

そして、タンスの肥やしに・・・

この季節あれやこれやと目を引くものが多すぎるのだと京香は一人憤慨する。

流行などに乗っけては毎年買わなくてはいけなくなって、懐がさみしくなるばかりである。

とは言うもののかわいいものはかわいいのである。

意識せずとも目がいくものである。

昨年も白い秋冬用のコートを買った後にこのままじゃいけない、もっと意志を強く持たなきゃと誓ったことを京香は忘れない。

そして、いざ戦場へ。

京香は行きつけの店へと入った。

「いらっしやいませー」

愛想良く笑顔で挨拶してくる店員。

しかし、目を合わせてはいけない。

奴らは肉食動物のようなもので、こちらは草食動物である。

こちらの手のうちを熟知していて、確実にその息の根を止めに来るのである。

京香は迷わずＴシャツの方へと向かう。

そして、迷わずさっと取りレジへ行くのである。

「あっ・・・」

京香は思わず不用意な一言を口にしていた。

手にしたＴシャツの隣に色違いがあった。
手にしている青系統のものよりも普段はピンク系統の服を着ることが多い。

今着ているブラウスもピンクだし・・・

と京香が考え込んでいると

「どうされました？お客様」

と店員が寄ってきた。

しまった、血の臭いに誘われたかと京香は心の中で舌打ちした。

「いえ、何でもないです」

と目をそらす京香。

しかし、その先には京香好みのジャケットが！

思わず目を奪われてしまう京香。

そして、その瞬間を逃しはしない店員。

「やつぱり気になります。あのジャケット。あれ一点ものなんです
よ。よかつたら試着されますか？お客様」

激しい店員との攻防の末、

「ありがとうございますー」

京香は二万五千円のジャケットと千二百円のＴシャツを買った。

初めの目的のインナーはちゃんと買ったのだと京香は自分を慰める。
とぼとぼと歩いていると声をかけられた。

「ちよつと、お譲ちゃん」

それは天然パーマでどこで売っているのか聞きたくなるような肉で
のばされた深い赤紫色のシャツを着たおばちゃん。

おばちゃんは京香にずいずいと迫り、京香はその迫力に後ずさりし
てしまう。

そして、おばちゃんは京香の耳元で、

「スカートのチャック開いてる」

おばちゃんのひそひそ声風のよく通るその声に京香は慌てふためい
た。

見ると右後ろのスカートのファスナーが開いて、ピンクのブラウス

がぴよこんと尻尾のように飛び出していた。

おばちゃんにはやりと笑って気をつけなさいよと言って去っていった。

何時から開いていたのだろう、京香は考える。

試着した時には上しか着替えていない。

もしかしたら家を出るときから・・・

そう思うと京香の手にしている紙袋の重みが一段と増すのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5644i/>

しっぽ

2010年10月15日22時32分発行